

高尾山報

令和6年6月号

全山を覆う瑞々しい青葉が
参詣者を出迎える





書院松の間にて佐藤貫首と記念撮影する内局の皆様

真言宗智山派総本山智積院より三神栄法宗務総長をはじめ、久保田剛十総務部長、金子隆昭教学部長、荒井真道教化部長、足田精栄法務部長、杉本栄次財務部長、宮田隆伸宗務出張所長の皆様が今年三月に発足した新内局の御挨拶の為、若葉色付く春の高尾山へ御来山されました。

真言宗智山派三神内局御来山 四月二十六日(金)

三神宗務総長御一行は書院において、佐藤貫首及び犬山執事長、深田執事と御挨拶を交わされ、暫しの間親しく御歓談されました。

法の水茎

大正大学講師 高橋秀城

(144)

新緑の風に愛らしく揺れていた若葉も、いつしか緑が濃くなってきました。恵みの雨を全身に受けて成長する姿に、力強い命の輝きを感じます。

五月間

おぼつかなきに

時鳥

鳴くなる声の

いとどはるけき(五月雨が降るぼんやりとした闇夜に、時鳥(ホトトギス)の鳴き声が遙か遠くから聞こえてくるよ)

『和漢朗詠集』

明日香皇子

五月雨(梅雨)の頃の夜の暗さを「五月闇」と言います。暗がりに沈んだ山の奥から闇を切り裂くようにホトトギスの声が聞こえてきたのでしよう。「春の夜の闇はあやなし梅の花」(『古今集』)

という歌もありですが、春の闇に隠しきれなかった梅の香りのように、ホトトギスの鳴き声もまた暗闇の中で存在感を放ちます。甲高い声を周囲に轟かせながら、いったい何を訴えかけているのでしょうか。

梅雨の宵晴れに目をこらせば、水辺の草むらで光る螢に出会えるかもしれません。

音もせで

思ひに燃ゆる

螢こそ

鳴く虫よりも

あはれなりけれ(声を出さないうで思いが燃え上がる螢こそ、鳴く虫よりも味わい深く心に沁みるよ)

『後拾遺集』源重之

この歌では「思い」の「ひ」に「火」が掛けられています。「感情の炎」に

よって光彩を放っている螢に、内に秘めた思いの深さを感じ取っているのでしょうか。「鳴く蟬よりも鳴かぬ螢が身を焦がす」という諺もあります。声を立てなくても、私たちの周りにたくさんの「思の火」(悲しみや怒り、思慕などで燃えたつ心)が満ち満ちているようです。

ちなみに螢と言えば

「螢火を以つて須弥を焼く」(『円覚経』)という

言い回しがあります。「須弥」とは仏教で説くところの「須弥山」(世界の中心に高く聳えるという高い山)のことで、か弱い螢火で須弥山を焼こうとする様子から「力の弱い者が成し遂げられそうにない大きな仕事を計画する」という意味で用いられるようになりまし

た。ただ一方では「螢を集める」(苦勞して学問に励む)という言葉もあります。たとえ小さな灯火であつても、継続して努めればやがては大きな

力となつていくので

さて今月

号では、日

本の四方の

境界から、

西の果てに

位置する長崎県の壹岐・

対馬を取り上げ、弘法

大師空海(七七四〜八

三五)との結びつきにつ

いて書いてみたいと思

います。

平成二十七年(二〇一

五)、壹岐・対馬・五島

列島帯は「日本遺産」に

認定されました(タイト

ル「国境の島 壹岐・対

馬・五島」古代からの架

け橋)。この地域は日

本と大陸(中国・朝鮮

半島)とを結ぶ海上交通

の要として、古くから多

くの人々が行き来してき

ました。

お大師さまも延暦二十

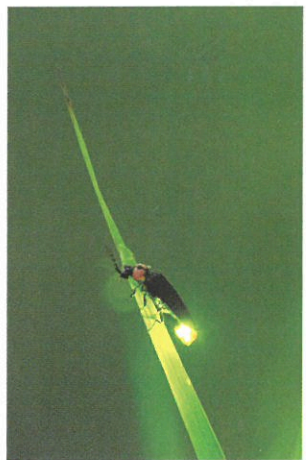
三年(八〇四)に、この

海域を通る遣唐使船に

乗つて唐(中国)へと渡

りました。現在、五島市

福江島北部の三井楽半島



思い出の火を灯すホタル

には、遺徳を顕彰するための石碑(「辞本涯の碑」)があり(昭和六十二年(一九八六)建立)、そこにはお大師さまの漢詩文集『性霊集』から「辞本涯」(日本を離れる)という言葉が刻まれています。雄大な東シナ海の中を、若き日のお大師さまを乗せた船は進んでいったのでしよう。

同様に、壹岐・対馬も日本と大陸をつなぐ要衝の地です。

船出せし

博多やいづら

対馬には

知らぬ新羅の

山ぞ見えける

(船出した博多はどの方角だらう。対馬からは見たこともない新羅(古代朝鮮の国名)の山々が見

えられる)

六〇〜一六〇〇)の手に

渡つて高野山に奉納され

ました(『日本歴史地名

大系』参照)。高麗版一切経は対馬の多久頭魂神社にも残されており、こ

うしたお経の伝来からも

対馬を集積地とした信仰

の広がりやうかがい知る

ことができます。

新羅の道者

幽尋の意

錫を持して

飛来するは

恰も神に似たり

(高野山の僧房に新羅の

修行者が来てくれた。道

理を求める奥深い心を持

ち、錫杖(杖)を持って

飛ぶようにやって来られ

た姿は、まるで神のよう

であつた)

『経国集』(空王海)

海路がつかないだ交流

は、生涯にわたって続い

ていたのでしよう。「神さ

ま」に喩えられた新羅の

修行者の目には、お大師

さまが輝く「仏さま」の

ように映っていたかもし

れません。

(栃木北部教区普濟寺)

渡せるよ)

(津守国基「国基集」)

という和歌もあるように、対馬は日本本土よりも韓国に近く、その距離は約五十キロメートルしか離れていません。こうした日本の西の最果てに位置する対馬にもお大師さまの伝承が残されています。対馬の地誌『津島紀事』(文化六年(一八〇九)成立)には、「遍照山暢願寺」というお寺の説明として次のように記されています。

大同元年(八〇六)のこと。唐より帰国の途にあつたお大師さまは、途中対馬の小船越村(現在の対馬市美津島町小船越)の地に立ち寄りま

した。しばらく逗留する間に寺を建立し寶光寺と名付け、自らの像を刻んで寺に安置してから帰られました。

それから長い年月が経ち、少しずつ像は傷んできました。そこで、天和二年(一六八二)に暢願寺へと遷座(仏の座を

他所へ移すこと)したので

です。

また、お大師さまは七日(七日間)の護摩行(密教の修法)を行つて、その薪の灰を練り集めて弁才天女の像を作られて

いました。その像の背には、お大師さまが指で押

した跡が残っています。

この仏像も暢願寺に留め

置られました。

(津島紀事)

お大師さまが留まつた

小船越村は朝鮮との交流

が盛んな場所でした。村

の西側には入江(西漕

手)があり、その北側の

丘にあつた寶光寺跡は、

今でも「弘法屋敷」「弘

法壇」と呼ばれています。

ちなみに、この辺りを

「高野」と言い、それは

和歌山県の高野山との縁

による地名とか。対馬と

高野山との関わりから言

えば、高野山奥院経蔵に

納められている「高麗版

一切経」は、室町時代に

対馬の豪族であつた宗氏

が入手し、後に対馬の八

幡宮から石田三成(一五

若葉芽吹く爽やかな青空のもと

高尾山若葉まつり

四月十三日～五月十九日

八王子芸妓衆による
華麗な祝いの舞



瑞々しい新緑の芽吹きをお伝えする、高尾山若葉まつりが、薫風香る四月十三日から五月十九日まで開催され、三年ぶりに山麓の特設ステージで「八王子芸妓組による祝いの舞」や不動院での「野点」、とんとんむかし語り部の会による「昔話」など、さまざまなイベントが開催されました。

高尾山や天狗にまつわる
昔話がお話しされた



不動院では野点による
お茶が振る舞われた



駒ヶ根分霊院例祭

五月三日(金)



石倉分霊院例祭

四月二十九日(月)



高尾山内八十八大師巡拝

五月十四日(火)



お大師様を祀る大師堂の前にて記念撮影



険しい山中を進み各所のお大師様を巡る

高尾山内八十八大師巡りが行われ、総勢四十名の方々が参加されて高尾山中を巡拝し、お大師様との御縁を結ばれました。
巡拝は清滝周辺のお大師様から始まり先達の僧侶とともに、「慚愧懺悔 六根清浄」と掛け念仏をお唱えしながら急峻な琵琶滝道を登る徒歩練行を行い、薬王院までの道中で各お大師様に法衆をあげました。
山上に到着し、大師堂周辺の八十八大師御砂踏み霊場を巡り、その後大本堂にて御護摩修行に参加されました。精進料理を召し上がった後には、一号路を下りながら道中の各お大師様を巡拝して不動院に到着。その後は不動院にて巡拝の成満を御本尊様に奉告する献灯式が行われました。

交通安全祈願碑法要厳修

五月九日(木)



無事故の世を祈る法要

高尾山麓の清滝駅前には、高尾交通安全協会(田中伸治会長)により令和元年五月一日に建立された「交通安全祈願碑」があり、交通安全を祈る法要が佐藤貫首導師のもと執り行われました。
祈願碑には先代の大山貫首が揮毫されました、「二心祈願 人車一体 愛情運転」という言葉が刻まれています。
小雨舞う、あいにくの空模様となりましたが、法要が始まると次第に雨が止み、高尾田中会長他多くの会員の方々が参列され、高尾山を訪れた多くの方々と共に、交通事故が無くなるよう一心に祈願されました。

高尾山年代記

歴代山主の事跡をたどる

明治大学博物館 外山 徹

54

十八世秀神12 護摩檀中の大名家(下)

文化六年(二八〇九)

成立の「江戸田舎日護摩講中元帳」(以下「元帳」と略す)には、当時の社会を構成する多様な身分・階層に属する人名が記されている。その中でも有力檀家と呼べる面々について、引き続き大名家の具体例を見てゆこう。

大名家への配札

「神仏の前では人皆平等とまではゆかないのが当時の仕組み」と記したが、支配被支配の厳然とした封建社会において、階層の相違は様々に可視化されていた。それは、護摩札の配札方法にも表れており、大名家に対しては「中奉書札守台付」

正月五本入台付」という最上級の届け方がされていた。

中奉書というのは紙のサイズと種別(こと)で、B3判(「高尾山報」を広げて2部並べた大きさ)に近い大きさの最上級の紙で、紙の御札としては最も大きなものだったと考えられる。それを「台付」とは足付の角盆に載せて届けたということになる。また、「五本入り」とは贈答用の扇子のこと。末広がり縁起物であり祝意を表現する進物としてかつては幅広く用いられていた。各大名家がそろって「中奉書札守台付・正月五本入台付」であるところ、紀伊徳川家のみ札は「箱入札台付」、正月の扇子も十本箱入りと別格の対応だった。また、札・扇子に加えて吉野櫃・奉書昆布が土産とされている。吉野櫃は「二升入り」という表現からも、和製アーモンドと呼ばれるその実を干したものと考えられ、昆布

の奉書は進物として上質な包み紙を用いたということだろう。

大名家と祈禱配札の関係を結ぶことは、上位の権威との関係をアピールできる点、寺勢拡張の上でも有為であった。例えば紀伊徳川家の祈禱所となれば、什物類に当時における最高権威の象徴たる葵の紋所を許されることは、訪れる一般信徒への影響は絶大であったと考えられる。この関係は単に札を届けていけばよいということではなく、大名家が施主として祈禱料を納めていたことは、前回取り上げた越前松平家に対する書状の案文からもわかる。

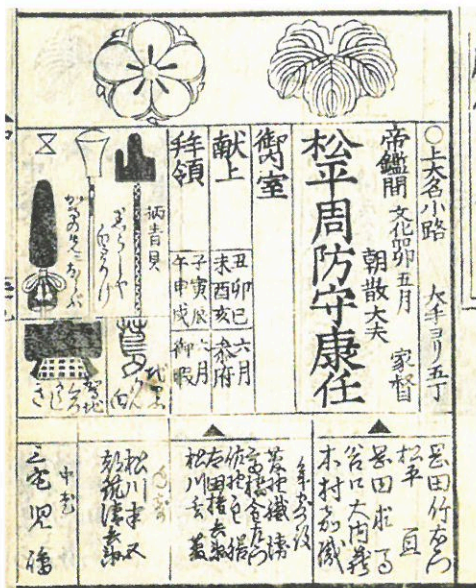
薬王院が檀中に大名家を抱えるようになったのはいつ頃か。決め手はないのだが、「元帳」以前において護摩札を届けた記録は紀伊徳川家の他に「永代日護摩家名記」に旗本久貝忠左衛門(天明二年・一七八二)があるのみで、「元帳」に所

載の大名家は、その後の三〇年近いブランクの間、恐らくは寛政九年(二七九七)に紀伊徳川家の祈禱所が再興されたあたりから、山主秀神が大檀那を獲得すべく布教に尽力した結果ではないだろうか。

浜田藩松平家

前号の酒井家につづき、譜代藩主としては浜田藩(島根県)六万余石の松平周防守の名が挙がる。その祖先は徳川家康の三河譜代で、元は松井姓だった。関東入国後は騎西(埼玉県)、笠間(茨城県)と移るが、江戸期を通じてその大半は石見国浜田に在城した。「元帳」に記された当主は文化四年に藩主を継いだ康任である。

寛政二年(二七九九)に再建された唐銅五重塔の基壇にはかつて銘板(文化九年)が嵌め込まれていた記録があり、「松平防州源康定」の名が刻まれている。文面には塔の



文化6年『武鑑』から(国立国会図書館デジタルコレクション)

再建が幕府の規制によって滞る中、弟子の方道が寺社奉行松平康定に要請し許しを得たとある。康定は康任の先代である。わざわざその名を記したのは、特例の配慮に感謝する意味があつたことだろう。

松井松平家が薬王院の檀中となった契機はやはりこの五重塔建立一件に関わると考えざるを得ない。康定は享和三年(二八〇三)まで寺社奉行の座にあり、許認可の判断を下す相手との師檀関係というものは、さすがにまづかるう。してみると、仮定の話だが寺社奉行を

退いた後、病没の文化四年(二八〇七)までの間に祈禱配札の関係を結んだ可能性が考えられる。

松井松平家との因縁はこの後も続く。康任は文化一四年(二八一七)に寺社奉行に就任。高尾山が文政三年(二八二〇)に内藤新宿で出開帳を執行する願い出の窓口となる。この時、開帳場である太宗寺の法流筋や領主内藤家への手続きが難航する中、康任の家臣野村市左衛門は場所替えを勧めると、寺社奉行側との書面の受け渡しなど実にスムーズな印象があつた。

鳥羽藩稲垣家

他に譜代大名では鳥羽藩(三重県)三万石の稲垣信濃守の名が見える。稲垣家は徳川家康の家臣牧野家に仕える陪臣だったが、関ヶ原合戦の翌年(二六〇二)、上野国(群馬県)伊勢崎一万石に封ぜられ大名に列した。以後、移封を繰り返す内に加増を得て、享保一〇年(二七二五)、昭賢の時鳥羽藩主となった。昭賢は火消の功績が特記される人物で、当主長統もまた文化五年の『武鑑』に桜田組大名火消として名が見える。高尾山の「火伏せ」の利益と関連付けたところだが、火消を勤める家は同年だけで二九家と数多い。

三田藩九鬼家

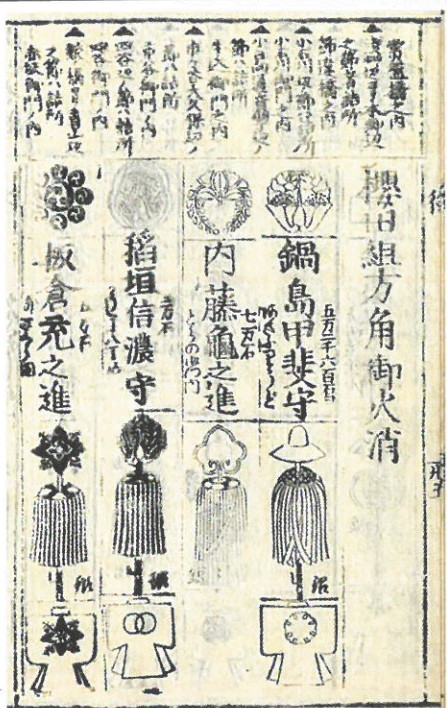
外様大名として摂津国三田藩(兵庫県)三万六千石の九鬼和泉守の名がある。

三草藩丹羽家

譜代一萬石の播磨国三草藩主(兵庫県)丹羽式部少輔は記事に若干異同がある。その祖先は織田家の家臣だが、家老格の長秀とは家系を異にする。信長亡き後は子の信雄に任せ、信雄改易後は徳川家に従った。その来

歴から丹羽家と高尾山との間にこれといった因縁は見当たらないが、他家にはない甲州柿という進物の記載がある。百個人二箱の内「二箱は御隠居様へ上げる」とあり、この事は当主氏昭よりも父氏福との懇意を示唆している。何時どのような経緯でその関係が生じたかは皆目見当がつかないが、何らかの機会に氏福が柿を好物とするのを知ったことには間違いない。また、掛りの鈴木吉兵衛は「屋敷内残らず」札を配っており、一萬石の大名にしては掛り役人への蕎麦粉や自然薯の土産も特別で、その関係の深さを感じさせる。

《参考文献》『新訂寛政重修諸家譜』(続群書類完成会、一九六四)、木村礎他編『藩史大事典』近畿編(雄山閣出版、一九八八) おことわり 本連載では史料の引用について、読みやすく原文に手を加えています。



守濃信垣稲を連る角火消に名を連る稲垣信濃守文化5年『武鑑』から(国立国会図書館デジタルコレクション)

健康登山者投稿作品

季節の絵手紙「雨の日は雨を楽しむ」

八王子市 峰尾里枝子 様



一步一步煩惱滅除

百八の階段を昇り、悩みや煩い事を取り除きましょう

二十九段 人生山あり谷あり

人生には様々な事があります。物事の見方によって幸や不幸も変わってくるものですので、多面的に物事を考えてみましょう。上り調子の時に思わぬ落とし穴があったり、下り調子の時でも別の道が見えてくるかもしれません。

高尾山 季節散歩

和風月名

水無月

「みなづき」

六月といえば梅雨を思い浮かべる方にとつて、「水が無い」という言葉には違和感を覚えるかもしれません。有力な説として、「無」は「の」を意味し、「水の月」となるといふものがあります。

今月の風物詩

梅

日本では六月六日が「梅の日」とされています。若い梅（青梅）の実には毒素が含まれておりますが、古来より青梅は薬品や梅酒、熟成梅は梅干等の加工品や、調味料として食用にされてきました。

雨の日限定

「水分詣」御朱印紙のご案内

高尾山御本尊 飯縄大権現様の五相合体の内の一尊である弁財天様は、薬王院境内の奥、有喜閣裏手にある弁天洞の最奥に鎮座し、そこから湧き出る浄水は、弁財天様の尊い功德として御参詣の人々に崇められております。「風雨順次」とは、季節が季節通りに巡ることを表す言葉で、ほどほどに風が吹き、雨が降ることによって人々の生活は成り立ち、『五穀豊穡』『万民法楽』へと繋がります。



この御朱印は生きとし生けるもの全ての生命の根源である雨が、お山に降り注ぐ時のみお授けいたします。古来より水を尊ぶ信仰「水分詣」の対象である弁財天様に、風雨順次をご祈願ください。
授与料 一千円
場所 御護摩受付所
時間 八時半から十六時まで
※雨天当日（予報も含む）のみ授与いたします。

いけばなの心 ⑤1

華道教授 佐藤 宗明



花材：燕子花（カキツバタ）、ヒメユリ

前回に引き続き、今回も『燕子花』を使用した生花正風体をご紹介致します。今回は柔らかく優しい感じを受けるかきつばたと、高原に咲くイメージのヒメユリを取り合わせています。かきつばたは

前回ご紹介したとおり、古来、日本人に愛され、よく生けられる花材です。ヒメユリも六月ころに山地や高原で可憐な花を咲かせます。この二種類のお花を取り合わせることで涼しく爽やかな風を感じる作品を目指しま

した。花器は竹器で上下にお花を生けられる『二重切』を使用しています。生花正風体では普通、水辺に生える植物と陸に生える植物を一株にまとめて生けることは致しません。しかし、この二重切は上下に挿し口が分かれているので、水辺に生えるかきつばたと陸に生えるヒメユリを一緒に生けることが可能となります。

高尾山天狗まつり

五月十八日(土)



いろは天狗の落し文 ④1

皆知ってる

争いごとは

欲から起る

こと多い

争いごとは欲望から生ずるものです。回避するためには、自利他の精神を心に留めておきましよう。すなわち、他人の利益となることのために、自分が行動することが、自分の利益へと繋がって行くようになります。

観音菩薩の宗教

78

国際教養大学特任教授 金岡秀郎

如意輪観音（その16）

唐や奈良朝の日本において、僧侶となることは国家の厳しい審査と承認が必要であった。国家に僧侶として認められたものには、度牒と呼ばれた証明書が交付され、そこから公式の出家者として令下の日本は一年間に出家できる人数も規定しており、これを年分度者と呼んだ。三津首広野と名付けられた十五歳の最澄が出家できたのも、近江国分寺に欠員ができたためであった。そのことは広野の得度を可能にした公文書である『国府牒』等に記されている。これにより広野は師の行表を戒師に得度して沙弥・最澄となった。

延暦二四（八〇五）年、

唐より帰朝した最澄は、その翌年、年分度者の配分を華嚴二名、天台二名、三論二名、法相二名と提案し、太政官より許可を得た。これは天台宗の公的認可とされるものであるとともに、当時の出家が人数のみならず宗派まで国家の管理下にあったことを示すものである。律令制下では、僧侶は官庁のひとつである治部省玄蕃寮の管理下に置かれ、破戒行為の取り締まりも「僧尼令」によって厳格に規制されていた。僧正・僧都・律師などの僧侶の階級（僧綱）も官吏たる僧侶（僧官）と同義であった。聖武天皇時代の玄昉が得た僧正の位も、日本初の大僧正となつた行基の位も仏教

界からではなく、朝廷から贈られたものである。平安時代になると、管理と庇護を両輪とする国家と寺院・僧侶の関係に変化が現れてくる。弘法大師空海が高野山を開創し、最澄が比叡山に登つたのも寺院と僧侶が都から距離を置くことになつたが、両者の関係の変化は政治・経済的な側面とともに、宗教・思想上の側面から考察することができると。前者は、律令体制の弛緩にともない寺領荘園が増えたため、国家による寺院監督の権限が弱まり、寺院経済が独立していったことに現れた。後者は、寺院が独自の思想・儀礼により得度させ、僧侶を育成するようになったことに見られる。これにより従来、官吏の性格を有していた僧侶が、寺院の子弟として、国家と距離を置いた場所で活躍できる環境が整つていった。今回、本稿においては後者の面、すなわち宗教家としての

僧侶が如何なる儀礼を経て育成されるかを見ることにする。以下では密教儀礼を主眼に考察するが、ことに如意輪観音菩薩が重要な役割を有することを見ていきたい。国家認定によらぬ出家得度は、密教儀礼である灌頂にその典型を見ることのできる。灌頂とはサンスクリット語でアビシェーカ (abhisheka) といい、原義は「頭に水を振りかけること」で、古代インドで国王が就任する際の儀礼を指した。漢語はこれを訳して「頭」頂に（水を）灌ぐ」としたものである。弘法大師は遣唐使船に同乗して入唐した翌年の延暦二四（八〇五）年、長安の青龍寺に至り、密教の最高峰であった恵果阿闍梨に謁を賜うることができた。金剛智（ヴァジュラボーディ Vajrabodhi）、善無畏（シュバカラシンハ Suhakarasinha）といったインド僧より唐にもたらされた密教は、同じく

インド出身の不空三蔵（アモーガヴァジュラ Amoghavajra）に伝えられ唐に定着した。不空から灌頂を受け、阿闍梨となつたのが唐人の恵果である。総じて仏教は師資相承といい、師から弟子への直接的伝授を尊重するが、ことに密教はこうした系譜を重視する。このさい最も重要な事相（儀礼）が灌頂である。恵果から灌頂を受けた空海が正統的な密教の継承者とされ、初祖の大日如来から降つて真言八祖と称されるのは、そこに根拠がある。

日本の真言・天台両宗では、師僧より灌頂を受ける前に準備的・予備的修行である加行をなさねばならない。その内容が四段階で構成されているため、四度加行と呼ばれる。現代では密教系の各本山において四度加行をなすことは密教の僧侶になるために必須であるが、空海が恵果阿闍梨より灌頂を受ける前に加

行を修したかどうかは明らかになつていない。密教事相の大家であった中川善教は、空海の「在唐日記の逸し去つた今日」、また『秘蔵記』にも加行に関しての記事は見あたら「ないことから、唐において空海は「加行といふものを修行されておないようである」と推測している（中川善教「四度加行折紙の変遷」『密教文化』一九五七巻、三九号、一九五七年、一頁）。さらに「加行とかいふものは日本に於て始められた」と述べている（同）。真言宗のみならず、天

台密教（台密）も含めると事相の流派は多岐に互るが、真言宗智山派所伝の幸心流などでは四度の階梯を十八道・金剛界・胎藏界・護摩の四行法を修することとしている。このうち十八道は十八の印明により組み立てられた行法である。印明とは手に結ぶ印相と口に唱える明咒すなわち真言を指す。密教では身口意を三密または三業と称し、印と明は最初の二である身密と口密をいう。最後の意密は心に本尊を観念すること、真言行者は三密すべてが相応すること

で仏と一体になることを目指す。十八道では本尊を招いて饗応する修法を示すが、そこでは本尊を最高の賓客として招待することが主眼である。行者は十八の印明を修することにより、本尊を招請し供養する。その次第は、行者本人の身を浄めること（護身法）に始まる。護身法は、加行で学ばれるのみならず、その後のすべての真言宗の法要の前後に修される印明となる。それは僧侶自身を浄めるとともに破邪の意味も有しており、護身法なしにはいかなる法要も始められず終えることができない。十八道では護身法の後、本尊を迎え入れる座敷である結界を作ることに続く。さらに本尊を乗せる車で

ある轝を本尊のもとに送り（送車轝）、本尊を乗せる（請車轝）。次いで結界した道場の中に本尊を招き入れる（迎請）。そのうえで道場を護り、本尊を供養する。本尊は時宜に応じて大日如来など他の尊格となることもあるが、通例、加行において招かれるのは如意輪観音菩薩である。換言すれば、真言僧となる人物が教相・事相を通じて最初に深くかわるの如意輪観音であり、それは密教における如意輪観音の宗教上の位置を明示している。十八道の修法に入る前に五体投地をする際、「南無婦命頂礼大聖如意輪観自在菩薩懺悔懺悔六根罪障滅除煩惱滅除業障」と唱えるのは、行者が如意輪観音に帰依して自らの罪障を滅ぼすことを表白するためである。

なお、本尊が大日如来の場合、結界を護るのは降三世明王であり、如意輪観音の場合は馬頭



『真言八祖像』のうち恵果阿闍梨像。左に立つのは従者。鎌倉時代。奈良国立博物館蔵「ColBase」(https://colbase.nich.go.jp/collection_items/narahaku/797-7?locale=ja)

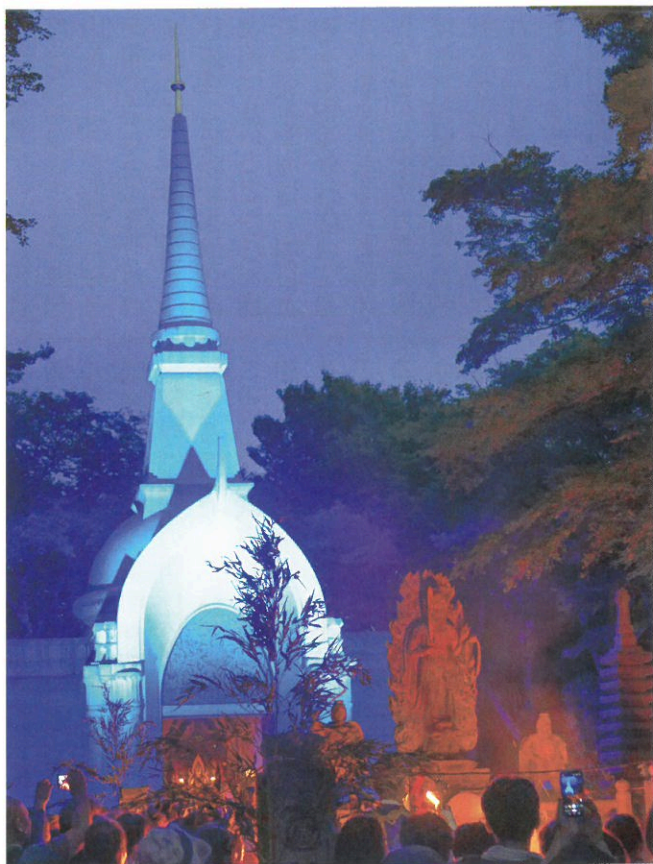
なる法要も始められず終えることができない。十八道では護身法の後、本尊を迎え入れる座敷である結界を作ることに続く。さらに本尊を乗せる車で

ある轝を本尊のもとに送り（送車轝）、本尊を乗せる（請車轝）。次いで結界した道場の中に本尊を招き入れる（迎請）。そのうえで道場を護り、本尊を供養する。本尊は時宜に応じて大日如来など他の尊格となることもあるが、通例、加行において招かれるのは如意輪観音菩薩である。換言すれば、真言僧となる人物が教相・事相を通じて最初に深くかわるの如意輪観音であり、それは密教における如意輪観音の宗教上の位置を明示している。十八道の修法に入る前に五体投地をする際、「南無婦命頂礼大聖如意輪観自在菩薩懺悔懺悔六根罪障滅除煩惱滅除業障」と唱えるのは、行者が如意輪観音に帰依して自らの罪障を滅ぼすことを表白するためである。

夏の高尾山 清涼体感めぐり 灯りの巡礼

真夏の高尾山では「灯りの巡礼」と称し、本年は八月二十四日に夕暮れ時から参道に並び立つ春日燈籠に灯りが点されます。また有喜苑では、世の平穏を願う希望の光を届けるため、仏舎利奉安塔を青く照らし出す「ブルーライトアップ」を行い、御信徒の皆様から御奉納頂きました紙燈籠を献灯致します。

同日には夕闇に包まれる有喜苑において、柴燈大護摩供を厳修し、御信徒の皆様の上安全、身体健全など諸願成就を一心に御祈念致します。



青く照らされる仏舎利塔の前で柴燈大護摩供が厳修される

紙燈籠奉納のご案内

高尾山で行われる「灯りの巡礼」にて、本年も八月二十四日に紙燈籠を献灯させて頂きます。皆様各々の願いを込めながら、ご一緒に境内に祈りの光を灯してはいかがでしょうか。

紙燈籠には奉納者名と願いの事を記し、諸願成就を御祈念致します。奉納を御希望の方は、ホームページ又はFAXにてお申込み下さい。ご不明な点等ございましたらお問い合わせ願います。

燈籠 二千元
特別紙燈籠 一万円

※特別紙燈籠をお申込みの方には柴燈大護摩供の際、お名前を読み上げ致します。

お申込み方法

左記QRコードより締め切りまでにお申し込み下さい。

ハガキやFAX等でもお申込み頂けますので、ご希望の方は信徒課までお問合せ願います。

TEL 〇四二六六一二二五

締切り 八月十六日(金)



暗闇を照らす紙燈籠

おはなし散歩道

レタス畑のかくれんぼ

町田市 大澤桃代

「もういいよ〜」
と、遠くから弟の声がありました。

レタス畑を見回しました。姿は見えません。弟にせがまれて、かくれんぼをしています。わたしは二年生、弟は年長で最近スイミングを習い始めました。

家は農家です。レタスやリンゴを作っています。学校から帰るとおやつを食べ、夕方まで弟と遊びます。

畑はシーンとしています。畑に入り、声の聞こえた方へ走って弟を探します。畑は学校より広いです。畝の間を見て回りますが、見つかりません。弟の声を聞いてからどれくらいだったのでしょうか。

——もしかして……
急に不安になりました。

畑は川に面しています。フェンスはありますが、破れているところがあつたはず。

弟は川が好きで、よくお父さんと遊びに行きます。ひとりで行ってはいけないと言われていますが、声は川の方から聞こえた気がしました。

わたしは、川へと走ります。畑のまん中に作業小屋があります。小屋に隠れているかもしれせん。

でも、川へ走ります。弟が川に落ちた姿が思い浮かんだからです。

息を切らせて、フェンス越しに川を見ます。川はザーザーと音を立てて流れています。

フェンスの破れ目から川に出てみました。川石をたどれば向こう岸へ渡れますが、川のまん中は

渦をまいています。

恐る恐る石をたどって渦の手前に出ました。

背のびしたり、しゃがんだり、何回も見ましたが弟はいません。

ここから見えるのは橋までです。橋の先は、流れが早くなります。

——流された……

震えながら石を逆にしたどります。そして、フェンスの破れ目から畑にもどりました。

小屋のところにお母さんがいました。

「お母さん〜」
わたしは叫びます。

早く、弟がいないことを言わなければ、でも、焦ってしまい、うまく言葉になりません。

お母さんはこつちを向いて、手を振っています。わたしは、ガタガタと震えています。川に落ちたみたい。

「お母さん〜」
いきなり私が飛びついたので、お母さんは驚いていました。

「どうしたの？」

と言いながら、お母さんはスプリングクラーのスイッチを入れました。

レタスの水やりです。水やりはスプリングクラーです。畑のあちこちで噴水のように水が上がります。シュルシュルと水が回ります。

「お母さん、お母さん」
泣きながら、弟がいなことを話します。

「それじゃあ……」
と、お母さんが真っ青になって、スプリングクラーを止めようとした時です。

「うわ〜ん！」
と、すぐその畝から弟の泣き声がありました。

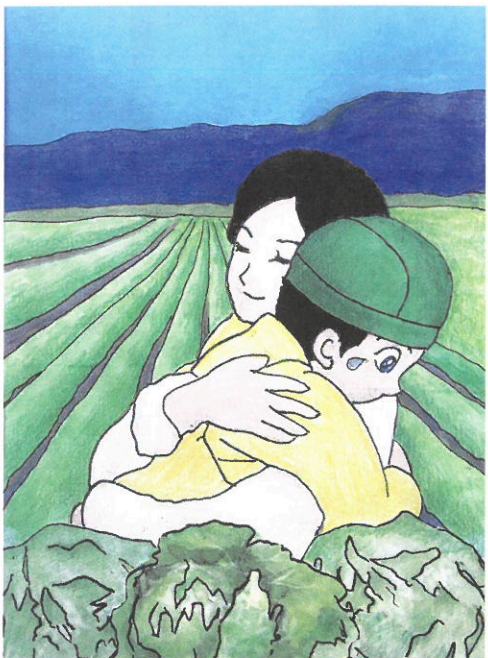
「あ〜っ！」
わたしとお母さんが同時に叫びました。

弟はスイミング用の黄緑のキャップをかぶっていました。レタスの色です。遠くから見ればレタスと見分けられませんが、わたしがなかなか探しに来ないので、しゃがんだまま眠ってしまったようです。

お母さんが弟にかけよりに、濡れた身体を抱きしめました。

あちこちのスプリングクラーから、小さな虹ができていました。

(挿し絵・小出 茂)



「第四十二回 高尾山写経大会」 開催のお知らせ

来たる七月二十八日、毎年恒例の高尾山写経大会を開催致します。希望される方には昼食をご用意致しますので、お申込みの際にご予約願います。十二時半の御護摩修行の前に大本堂にて法話を行いますので、ぜひご参列下さい。

在宅写経につきましても、引き続き実施致します。参加ご希望の方は、写経作法・心得を記した「写経の手引き」等、写経用紙一式を発送致しますので、ご自宅にて書写後、当山までご送付下さい。

お預かり致しました写経は、写経大会の際に御本尊様御宝前に奉安致します。

高尾山での写経をご希望の方

日時 七月二十八日(日) 午前九時半集合

会場 高尾山薬王院大本堂

参加費 二千円

食代 二千二百円 ※要事前予約

申込 ハガキに郵便番号、住所、氏名、電話番号を明記の上、左記までお申込み下さい。

〒一九三・八六八六
八王子市高尾町二二七七 高尾山写経大会

※定員(百二十名)になり次第締め切ります。
写経に必要な諸道具は当山にて御用意致します。

在宅での参加をご希望の方

参加費 二千円

※参加費につきましては、送付物一式に払込取扱票を同封致しますので、郵便局にてお支払い願います。

申込 お電話、またはホームページ上よりお申し込み下さい。

TEL 〇四二・六六一・一一一五
<https://www.takaosan.or.jp/>

申込締切 七月十日(水)必着

高尾山子供やまぶし修行体験会

高尾山に古来より伝わる、やまぶしの修行体験してみませんか？

山に広がる大自然の中で、やまぶしと共に滝に入り、山歩きをして困難や試練に耐える強い心を鍛えてみましょう。

夏休みの思い出作りとしても、是非ご参加下さい。



日程 令和六年八月四日(日)

集合場所 高尾山麓不動院 午前八時集合

参加費 五千円

対象者 小学生(一年生〜六年生)

定員 五十名(定員になり次第受付終了)

行程 出発(不動院)↓滝修行(琵琶滝)↓山歩き(自然研究路)↓食事↓腕輪念珠作り↓御護摩修行参加(大本堂)↓下山(ケーブルカー使用)↓閉会式(不動院)↓解散(十五時四十五分頃)

申込方法 左記QRコードより受付期間内にお申込み下さい。

受付期間 六月二十六日(水)九時から
〜七月二十六日(金)十五時まで

※受付が完了しましたら子供やまぶし受付確認メール【自動配信】を送信します。

子供やまぶし受付確認メールに要綱(持ち物、服装等記載)・行程表を添付致しますので必ずご確認ください。

ご不明な点は、子供やまぶし修行体験会係までお問合せ下さい。

電話 〇四二・六六一・一一一五



百観音霊場巡礼 (32)

厚木市 荒井 一雄

夏遊清瀧寺

過仁王門提供銭

讀經上香主殿前

篤信農民應紅印

國寶重文不要焉

奥山の

瀧につかれれば 人恋し
人につかれれば 瀧ぞ恋しき

夏、清瀧寺に遊ぶ

仁王門を過ぎ、お賽銭を上ぐ…

読経し焼香す、本堂の前に…
長年無住の此の札所を篤信の
農民が共同にて守り立て、

朱印・納経に応ず…

み仏のみ心が隅々に染み込める
此の境内には国宝も
重要文化財も要らず…

薬王院インスタグラム紹介

薬王院では、インスタグラムを用いて各種行事や四季が移ろいゆく風景を、写真や動画で御信徒様にお届けしております。

これからも様々な写真や動画を沢山アップしていきますので是非ともフォローをお願い致します。

下記のQRコードかURLから検索ができます。



TAKAOSAN_YAKUOIN

[instagram.com/takaosan_yakuoin/](https://www.instagram.com/takaosan_yakuoin/)

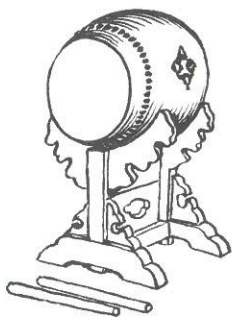
郵送御護摩申し込み受付について

高尾山では大本堂に於いて、毎日御護摩修行を行っております。遠方の御信徒や、参拝できない御信徒の皆様のために、御護摩札の郵送をお受けしております。

手紙、FAX等での申し込みをお願いしておりますが、「高尾山薬王院公式ホームページ」内の御護摩祈禱の御案内からインターネットにて、直接お申し込み頂くことが出来ますので、是非ご利用頂きますようお願い申し上げます。

お問い合わせ先 ☎ 〇四二・六六一・一一一五
「郵送御護摩係」まで

高尾山報助成金志納者 御芳名(順不同・敬称略)	武蔵野市 井口 八重子 邑楽郡 福田 進 狭山市 根岸 由洋 桶川市 関根 章 八王子市 石田 博司 小平市 関 道雄 八王子市 吉田 企徳 杉並区 植木 トシ 高尾山健康登山者一同
世田谷区 水田 文敏	新座市 彰山 粧麗
北区 清水 音二	富里市 森 照森
上尾市 國嶋 福生	所沢市 佐久間 桂子
熊谷市 吉野 六雄	八王子市 松山 ほづみ
伊勢崎市 田島 充	相模原市 高麗 良雄
いわき市 松山 寺	八王子市 濱中 山
相模原市 原 武	久慈 蓉子
行田市 松本 恵美子	





登山だより

七月行事日程

一日〜七日

聖天秘供(聖天堂)

十日、二十二日

弁天様御縁日

八日

仏舍利詣り(仏舍利塔)

十二日

お施餓鬼大法要

九日、二十三日

御詠歌勉強会

二十八日

高尾山写経大会

奥の院開扉供養

三十日

(十時奥之院)

高尾山とんとんむかし

「語り部の会」

(十二時半山麓不動院)

毎日の お護摩奉修時間

午前9時30分
" 11時00分

午後0時30分
" 2時00分
" 3時30分

ご講中・団体等
御相談下さい。



二十一日

飯繩様御縁日

神徳報謝百味飲食供

(九時大本堂)

☆神徳報謝百味飲食供

高尾山御本尊飯繩大権

現様の日々の御加護に感謝

し、沢山の御供物を捧げて

御本尊様威光倍増の為、御

供養申し上げる法要です。

皆様の御志納を受け付

けておりますので、ご希望

の方は大本堂までお申し出

下さい。

尚、法要終了後に百味の

お札を授与致します。

毎月二十一日午前九時勤修

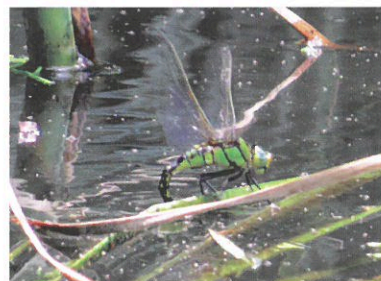
御志納金 一口三千円以上

高尾山の昆虫

クロスジギンヤンマ

176

かなり以前ですが高尾山の麓に小さな井戸のような水溜まりがあり、そこにいくと必ずと言っていい頻度で美しい大型のヤンマに出会いました。



直感的にギンヤンマだと思いましたが、尾はルリボシヤンマのような綺麗な水色の斑紋が入っていて、後になりクロスジギンヤンマだと分りました。

ギンヤンマとルリボシヤンマのいいところ取りのようなヤンマなので美麗種であることは当然の成り行きかも知れません。ギンヤンマとはよく似ていますが、クロスジギンヤンマはその名のように胸や腰に明瞭な黒筋が入ります。

この両種は混生しますが、池沼においてギンヤンマが明るい環境を好むのに比べ、本種は周囲が樹木で囲われたようなやや薄暗い場所を好みます。

トンボやヤンマの仲間はよく番いになって連結して飛行しますが、ギンヤンマのオスとクロスジのメスが連結しているのを見ることがあります。

交雑が成立した場合、両種の特徴を併せ持つ雑種スジボソギンヤンマが誕生し、繁殖能力を持つ、持たないとの遺伝性の有無を含め興味深いテーマだと感じます。

(文松島 孝 撮影上村 雅昭)

高尾山報助成金

御志納のお願い

当山では、大護摩修行等により御縁を結ばれた御信徒様に高尾山報を送っております。

引き続きご愛読されますよう、皆様方の助成金御志納をお願い申し上げます。



下記のQRコードから高尾山薬王院のホームページにアクセスできます



高尾山薬王院ホームページ
<https://www.takaosan.or.jp>

発行所
東京都八王子市高尾町2177
大本山
高尾山薬王院
郵便番号 193-8686
電話(042)-661-1115(代)
FAX(042)-664-1199
発行人 犬山 秀 康
編集人 菅井 倫 浩
印刷 ヒラツカ印刷社
毎月1回1日発行
1部50円